

# 肝Co こんな活動も

外来看護師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること  
(対象が患者さんとその家族)

## 予防

肝がん肝硬変予防のため  
肝炎の正しい知識を  
多くの方に普及する

共通の  
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C 型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

外来看護師さん  
だからこそ



- 肝炎患者さん以外でも外来受診で気になる方には肝臓食パンフレットを設置。必要時、医師、看護師から配布する。
- DM、BMI が高い、肥満の方や、腹囲が異常値の方がいたら SLD のパンフレットを渡す。「最近では脂肪肝も癌の原因になるって知っていますか？」と声をかける。
- SLD の患者さんの腹囲を測る。
- 肝疾患専用相談電話の対応をする。
- 化学療法や免疫抑制剤使用開始予定のある患者さんに HBV 感染既往（再

活性化のリスク)があるかを確認する。

- ウイルス性肝炎合併妊娠の母親から出生した児の母子感染予防、および精神的サポートを行う。
- 看護の日に啓発をする。
- 肝 Co 以外のコメディカルへ肝炎の知識、肝炎ウイルス検査結果の通知の説明、検査の必要性などを普及する。
- 子供の予防接種について啓発、スケジュールを調整する。
- 他科の外来ブースに肝炎ウイルス検査陽性者に対する対応や相談窓口の案内について掲示する。
- 外来コーディネーターによる勉強会を開催し、他の外来スタッフと情報共有を図り、患者さんへの看護統一を図る。
- 他科 Dr やスタッフからの問い合わせの対応をする。

## 受検

### 肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

#### 共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

### 外来看護師さん だからこそ



- 検査を受けた方に検査結果を伝える。または通知カードや肝炎ウイルス検査シールを渡す。
- HCV や HBV の患者さんの家族やパートナーに肝炎ウイルス検査を勧める。
- 患者さんの病歴や家族歴を聞く。家族や本人が肝炎の可能性がないかを確認、聞き取りをし、必要あれば受検を勧める。例) 肝硬変で加療中→B、C 由来のものか確認する B、C 由来であれば家族や同居中の人にも肝炎ウイルス検査を勧める。
- 妊娠初期の肝炎ウイルス検査結果が陽性の場合、担当医と相談し肝臓専門医と連携するよう伝える。

- 自分が閲覧するカルテ全ての人の肝炎ウイルス検査結果を確認する。未受検であれば検査を勧める。
- 外来患者さんの肝機能に関わる検査値を興味をもってみる。
- 肝炎ウイルス検査結果の説明文書を管理する。(説明が行われているか、その後、紹介されているか)
- 初診患者さんや治療開始の患者さんに対し、他職種と連携し情報共有をはかり橋渡し役を担う。
- 問診表やカルテから未受検者を見つけ、未受検者には検査を勧める。
- 他科の患者さんの術前検査で実施する肝炎ウイルス検査が陽性の場合、担当医と相談し、肝臓専門医につなぐよう連携する。

## 受診

### 肝炎ウイルス検査陽性者に肝臓専門医での精密検査を勧める

#### 共通の活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

### 外来看護師さんだからこそ



- DAAでSVR後の患者さんを、肝臓専門医の外来担当日に受診してもらうよう促し、予約を調整する。
- 肝炎のご家族の受診歴を伺い、未受診の場合、受診の予約につなげる。
- 院内の肝炎陽性患者さんの拾い上げを行い、消化器内科への受診を勧める。
- 自分が閲覧するカルテ全ての人の肝炎ウイルス検査結果を確認する。陽性であれば受診歴を確認し、未受診ならば専門医に紹介する。
- 患者さんやご家族の【辛いこと】を伺って、必要時同職種で共有したり、他職種へ伝える。
- C型肝炎やB型肝炎の治療開始時に説明をする。
- 肝炎ウイルス検査陽性者へ精密検査の受診を勧め、初回精密検査費助成制度について説明をする。
- 肝炎ウイルス検査陽性判明時の伝達システムの構築と活用をする。

# 受療

## 肝炎の治療を 勧める

### 共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

## 外来看護師さん だからこそ



- 治療開始の患者さんに肝炎治療パスを用いて治療の流れを説明する。
- 受診時には問診時に症状や悩み事等ヒアリングを行い相談にのる。
- DAA、LC、HCC などの治療中で体調不良を訴える患者さんの対応をする。
- 外来通院中の肝疾患患者さんにご家族への療養支援を行う。(症状管理：肝性脳症の気付き方、腹水・胸水把握のための体重測定推奨、かゆみマネジメント)(内服：排便状況を確認して下剤確認・調整、新規開始抗ウイルス薬の飲み方と副作用の説明)(制度：介護保険申請・訪問看護師などの利用調整)
- 肝炎治療内容や助成制度の説明および治療中患者のフォローアップを行う。
- 外来診察時に肝炎治療中患者に対する生活指導、相談窓口となる。相談内容によって、多職種との連携をとる
- 患者さんやご家族の【大切にしたいこと】を伺って、同職種で共有したり、他職種へ伝える。
- 肝炎治療パスを作成し、治療スケジュール管理や受診状況を把握する。
- 外来肝疾患患者さんの療養支援へのより良い方法や患者さん・ご家族さんをより理解していくために多職種カンファレンスを企画し運営する。
- 看護師は受診患者様の受診を確認し、検査や受診にもれがないか確認後、毎月の外来委員会で人数の報告を行い医師に周知徹底を図る。
- 病棟と連携し、退院後の患者さんのフォローを行う。

# フォロー アップ

## 肝がんの早期発見のため 定期的な検査を勧める

### 共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

## 外来看護師さん だからこそ



- DAA 治療終了後患者のフォローアップ、継続受診、検査の必要性について説明する。
- ウイルス性肝炎の母親から出生したお子さんの予防接種や定期検査、および精神的なサポートを行う。
  - 肝疾患をお持ちの患者さんに定期検査の必要性や通院状況の把握、説明をする。